

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を応接室・ホールなど目の付くところに掲示してある。ユニット毎の目標作成・職員の個別の目標設定の際、事前研修を行い理念に基づいて理念を踏まえて作成している。職員の個別目標は業務申し送りの際に日々評価を行っている。	ユニット毎に年度目標を設定し、毎月の具体的な取り組みを示し、目標の振り返りも毎月の職員会議の際に行っているほか、職員との個人面談もを行い、理念を実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のクリーン活動や夏祭り行事への出店、近隣美容室の活用など町内の方々と触れ合うよう努めているが、参加者は代表者のみに限定している。面会制限期間中は近隣ボランティアや学童の受け入れなどは行っていない。	町内のクリーン活動に参加したり、町内のお祭りに出店したり、地域の方からタオルを寄付してもらっています。また、今年度は新型コロナの影響で自粛していますが、例年は定期的にボランティアの方に来て頂いたり、地域の小学生にも来て頂き交流の機会を持つなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍での活動は自粛している。認知症高齢者向けの迷子札を発案し地域での販売を予定していたが、自粛期間の為に中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面会議として行っているが、活動報告に対しての意見書書などの内容からは運営に対しての要望に至るものは無い。苑から発案した地域行事への出店は実現した	今年度は新型コロナの影響で書面開催となっておりますが、運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内副会長、民生委員、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ご利用者、ご家族へ事業所の状況報告を行い、書面にて頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の転倒事故や骨折等の事故報告を連絡する程度になっている。コロナ禍では感染対策の問い合わせ・ワクチン接種に関しての連絡調整を行っている程度	地域包括支援センター職員には運営推進会議を通じて、事業所の活動状況やご利用者状況を報告しアドバイスを頂くなど連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	退院後や利用者混乱等、通常の介護で対応が困難な場合には家族への同意を得たうえで最小限の身体拘束(体動確認の鈴やセンサーマットの使用)を行っている。事故検討会など個別対応を検討する際には身体拘束の可否について意識しながら話し合い対応方法を検討している。社内研修を行い意識付けを行っているが、日々の言葉かけなどで意識不足になることも多い。また、職員欠員で見守りが困難な際には離苑防止の為に正面玄関を施錠して対応してしまうことがある。	言葉などの「目に見えない拘束」についても、「5ない運動」を実施し、毎月の職員会議で検討の機会を設けています。また、玄関の施錠も夜間のみとするなど、事業所にて身体拘束をしないケアを徹底をしているほか、内部研修を実施し、職員の理解を深めています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣の際に発見した痣や内出血は小さい物でもヒヤリハットなど記録に残し送りの際に職員間で情報共有を行っている。原因不明の痣や内出血などは必要に応じて会議で対応方法を検討している。社内研修で法令や事例を資料として話し合いを行い意識付けをしている。言葉かけで強い言葉を使ってしまうことや他職員の言葉かけを注意できない事がある	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しているほか、言葉遣いについて職員に指導したり、ヒヤリハット、事故報告書をユニット会議で確認し職員間で振り返りを行うなどして、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業に関してはここ数年対象の利用者事例が無いため職員の実感が低下している。研修テーマとして扱う頻度が低く、各職員の理解が進んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に契約書や重要事項・料金等の説明を細かく伝えるよう努めている。料金改定の際には2か月以上前から事前に説明をするよう努めているが、介護保険料の変更や増税に関する回避不可な事由が主になっている為、同意せざるを得ないといった意見を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際に利用者の状況報告を行うとともに家族からの意見を聴くように努めている。家族からの意見や苦情と感じられる事柄に関しては些細な内容でも記録を行い、苦情報告書や申し送り等で情報共有を行っている。対応方法や業務の改善で対応可能な事柄に関しては会議で検討し柔軟に対応している。	面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いかご家族に確認しています。また、ご利用者から日常生活に関する要望を確認する機会を設け、ご利用者のニーズを確認しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望は要望ノートや会議での要望検討事項として会議のテーマにあげることができ気軽に提案できる機会を設けている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、要望ノートに記載し議題を決め、毎月のユニット会議の場で職員同士で検討が行われ改善されています。また、職員とも面談の機会を設け、その内容を踏まえて、就業環境の改善に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個別に面談で話を聴く時間を設けている。職員の意見を聞き納得したうえで職場環境・条件を整備している。人員不足な部分もあり全ては繁栄出来ないが個々の希望に添えるよう勤務時間や日程調整に努力している。施設独自の「ポリアンナ」という相互評価のシステムを取り入れてボーナスの査定などに活用している。個々の職員の生活環境を加味して勤務調整を行い、それ以外にも翌月度の勤務希望を反映できるよう事前に希望を聴き反映させている。介護事業のみでの収益体制では満足な給与にならない為、別事業を常に模索して余剰収益を給与として分配できるよう勤めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過での外部研修や講師を招いての研修は行っていない。管理職職員に限定されるが、感染症対策のzoom研修の際には受講できるよう配慮している。外部評価の項目を題材とした社内研修として、毎月行われるユニットごと会議にて社内研修を行っている。社内研修資料は講師担当の職員に作成してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設交流は面会制限下では行っていない。代表者のみ市内介護事業者協議会に参加して情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様から施設見学に来ていただけるよう家族へ声掛けを行っている。入居後も他利用者との関係性が円滑になるよう職員で会話の仲介に入るなど配慮している。携帯電話の所持や自己管理金など希望される場合には柔軟に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して家族が心配になっている事や不安に感じている様子がある場合には傾聴するよう努めている。家族を施設に入居させる事に気が病んでいる方もいることから、入居後の落ち着いた様子などを家族へ連絡して安心して頂けるよう配慮している。プラン作成の際には家族から過去の生活歴などを教えて頂くことになる為、居室担当を話しやすい窓口となるよう関係性を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の介護サービスを併用希望されるケースは無いが、主治医変更や救急時の医療機関など家族の意向がある場合には柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の皮むきや洗濯物を置むなどの軽作業を手伝って頂くことが多いが、持てる能力に合わせた個別作業も提供することがある。プランにあがっている活動以外でも個別に触れ合うことが出来るよう声掛けをしているが、業務を優先させてしまい時間が割けない場面もある。食事や余暇・テレビを観ている時間などを一緒に楽しみ共に過ごせるよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で外部との接触を断っている為に受診時の家族付き添いなど交流支援が出来ていない。面会の解除に至らないことで『ガラス越し面会』『LINEでのテレビ電話』を模索している。日常での様子は毎月お家族へのお手紙を居室担当者よりお送りしているが、職員側からも家族との直接の接点が少ないために家族の意向を満足には聴けていないと感じている。タブレットを用いた記録に変更したことから、写真を撮影する頻度が増した。LINEを活用した家族への連絡方法は以前よりも気軽に行えて来ている。	事業所広報を毎月送付しているほか、お手紙も個人ごとに医療面や日常生活の内容が分かるように毎月送付しています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出の支援もご家族に協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過での行動制限と面会制限の為になじみの場所への外出や来訪者との関りが出来なくなっているが、季節に合わせて個別な外出としてのお墓参りやドライブなどで馴染みの場所へ行くよう個別に努めている。	今年度は新型コロナの影響で自粛していますがご家族にも協力して頂き、自宅での法要やお盆にお墓参りに出かけるご利用者もあり、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者どうしの関係性やパワーバランスを観察して食席や余暇の居場所の提供を常に気にかけている。認知症の強弱もあるため利用者同士の過干渉になる場面も見られることから、職員間で関係性の情報を共有をしつつ仲介に入ることがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後に具体的な相談や家族のフォローを求められるケースが無いためにここ数年は事例が無い。ただ、退所後にご利用者が亡くなられた旨の連絡を頂いたり、退所後数年経過したご家族様より季節の野菜や果物を頂くことがある。また、一度退所されたご利用者様から再入居の希望があったことから再入所に至ったこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式D-4シートを活用して各利用者を集团的に観察する期間を設けている。あがってきた情報から本人の思いや意向をプラン作成に活用している。記録媒体がデータ化されたことから些細な事でも検索がしやすくなってきている。	日々のケアの中での何気ない会話の中から思いの把握が行われており、その情報は会議の場で共有され、ケアプランの検討に活かされています。また、月に1度ご利用者が集まる会議も行い、素直な要望を確認しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの情報をセンター方式のB-1・2・3シートを活用して情報共有し、個別ファイルにてその都度閲覧できるようにしている。入居後も本人との会話の中から、これまでの生活歴・暮らし・嗜好・生活環境などの把握に努めて記録に残し情報共有を行っている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご家族にもセンター方式のシートの作成協力も頂くなど、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、6ヶ月に1度は居室担当職員がアセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の活動ではプランサービスに沿って提供するように努め、変化のある際には作業内容や気が付いたことを記録し職員間で些細な情報も共有に努めている。当月のモニタリング結果情報を家族へのお手紙に記載して連絡をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関りの際に提供したサービスを観察し、変更が必要な場合には状況を記録に残している。モニタリングの結果を踏まえて半年毎にD-4シートを用いた集中観察期間を設けている。ケアプラン作成の際には家族や本人に意向を確認し作成している。	日々の介護計画の実践状況も確認し、モニタリングは毎月実施しているほか、介護計画も職員全員に回覧し意見を取り入れる取り組みも行っています。サービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、6か月毎の計画の見直しを行っているほか、ご利用者の状態に合わせた随時の見直しも行っています。	調査時点で介護計画書の作成が遅れていたり、サービス担当者会議録が作成されていない方もいましたので、今後改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット記録に移行して2年程経過した。個別記録をフォーカスで検索しやすくなり、書体も統一されてことから閲覧しやすくなった。些細な事からも気づいた検討ヶ所をケアプラン見直しに活かしている。医師へ報告する際などには内出血や傷の様子を写真と一緒に記録することが出来るようになり、的確に情報を伝えられるようになった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過で家族による受診付き添いを中断している。職員付き添いでの受診や個別の買い物支援など出来るよう配慮している。遠方の家族で預り金などの入金滞りがある場合には宛からの建て替え支払いなど行い、利用者の生活に影響が出ないよう配慮している。コロナワクチン接種など家族の意向で拒否される方もいることから、外出や面会の支援など個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で利用者個々での地域へ出ていく活動やボランティアの受け入れ・運営推進会議など全体的に消極的になっている。施設と地域との関わりに関しては町内のクリーン活動や近隣通りの除雪・地域夏祭りへのピザ屋出店など活発的に参加するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際の主治医変更などは個別に柔軟な対応を行っている。家族の意向や生活歴などから現在3名のご利用者様が施設主治医以外の主治医となっている。個別往診やインフルエンザワクチン接種などは個別対応となっている。	かかりつけ医は希望するかかりつけ医となっており、事業所に往診も来て頂いています。協力医院以外の受診時はご家族に付き添いをお願いしますが、必要に応じ職員が支援し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供書を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設主治医がほぼ毎日個別往診の為に来苑されている。当日の個診対象利用者以外にも体調変化のある利用者がある場合には、その都度医師へ連絡し柔軟に診察をして頂くことがある。体調不良時の点滴など医療行為の際は看護師による処置をきめ細かく行っていただいている。来苑時の看護師と職員との関係は比較的良好		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の1か月は居室の取り置きをしている。また、退院時期が1週間程度伸びる場合でも柔軟に対応している。病院側から入院者の介護度変更を依頼されることもある為、変更申請の調整を行ったこともある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の設備では対応できない重度化に対しては、特養への申し込みや次の移転先を検討する必要性を早い段階で家族に説明するようにしている。入居の段階で終末期までの対応は設備の関係上出来ない旨を説明しているが、看取りギリギリまで対応したケースも複数ある。	事業所としての重度化についての指針を作成し、契約段階で看取りケアは基本的には行わないというホームの方針をご家族に伝えてあります。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は毎年全職員が救急救命講習を受講していたが、コロナ過では行っていない。緊急時対応フローチャートは作成されているが、実際の現場に立ち会った経験が少ない職員もいるための的確な対応が出来るか不安視している職員もいる。	急変時の対応に関する内部研修の機会を設けたり、ユニット毎に夜間対応表を作成する等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月レクリエーションを兼ねての火災対応の避難訓練・年に2回の通報訓練を行っている。消防関係者へ地震や風水害時の避難に関して問い合わせを行ったこともあるが、建物の形状から無理に屋外への非難をしない方が安全であるとの見解となつてもいる。地域の防災訓練の際には正面駐車場を開放するなど関わりを持てるよう努めている。	毎月、火災や地震を想定した避難訓練を行っており、ご利用者からも反省をいただいている他、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年は隣接する住民の方々に避難訓練に参加して頂くなど地域との協力体制も築いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助の際などドアを開けて介助してしまうことがある。一人ひとりの生活歴や性格を加味して本人に理解しやすい口調や話し方で言葉かけをするよう心がけている。ただ、言葉かけの際に大きな声で伝えてしまうこともある。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもすべてのご利用者に確認しています。	調査時点で重要事項説明書の作成日が入力されていなかったり、契約書の契約日の記載に誤りがある方もいましたので、今後改善されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の提供や服装などを選ぶ際に出来る限り選択をして頂けるよう配慮している。入浴や外出や余暇を過ごすスペースなどはその都度意向を確かめて無理強いすることの無いよう配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	プランや日々の活動に誘う際には、それぞれの利用者の体調や気持ちに添えるよう支援や声掛けを心がけている。意思決定が困難な利用者も多いため、サービスの状況を観察してプランに反映させるように努めている。人員欠員の際などには業務優先になってしまい、満足なサービスを提供できない事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自らの能力で整容が可能な方には起床時や入浴後などに声掛けを行い促している。全利用者共通な対応のタイミングとしては、爪切りや髪形など共通の部分に関しては入浴後に職員介入して支援している。着衣や私物などは現状の本人に適した物になるようを家族へ提案して用意して頂くようにしている。可能な場合には個別に買い物支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に興味を持って頂けるよう盛り付けや調理下処理などの際には手伝っていただくこともある。食事形態は個々の能力や身体の状態に合わせてミキサー食やお粥などで対応をしている。嫌いな物が多い方には個別に代替の食材を提供するように努めている。イベントとして外部のお弁当やインドカレー・窯焼きピザなどを提供することもある。	ご利用者にも出来る範囲で調理や味付け、後片付けも行ってもらっています。また、事業所でも野菜をつかっており、収穫もご利用者の楽しみとなっています。今年度は新型コロナの影響で自粛していますが、ご利用者と一緒にレストランに外出し出かけたり、干し柿作りも行うなど、ご利用者に食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量・水分量は観察して記録している。職員間での情報共有で水分量や排泄量に変化がある場合には個別に観察記録用紙を用いて観察を行い必要に応じて医師へ相談を行っている。また、摂取形状で工夫が必要な方には個別にゼリーや乳性飲料などでサポートしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け誘導にて歯磨きの支援をしている。歯の無い方、口腔ケアの指示が通りづらい方にはスポンジ棒を使用して舌苔や口腔内の拭き取りを行っている。義歯や口腔内で治療などが必要な場合には歯科医受診を行っているが、歯科医からの定期的な診断は受けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取量から排尿の頻度やタイミングを観察しトイレ誘導を行っている。怪我や体調不良時など必要な際にオムツを使用する場合もあるが、基本的に常時使用者はいない。排尿の自覚が困難な方にはトイレ介入時や尿臭の有る場合など必要に応じてパット交換を支援している。自力での排尿が困難な方には腹圧介助を行うこともある。	夜間は全てのご利用者の排泄チェックを行ない、ご利用者の状況に応じては日中も排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無は毎日申し送り把握出来るよう勤めている。数日続けて排便を確認できない場合など、自立排便困難な利用者に対しては医師の指示を受けながら職員間で情報を申し送り座薬や内服調整などの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕食後も夜間入浴が出来るよう職員の勤務形態から工夫を行っている。入浴頻度は2～3日程度を目安に声掛け入浴を促しているが入浴を嫌り4日程度入らない場合の方もいた。毎日の入浴希望がある方にも希望に添えるよう努めているが、職員欠員等で意向に沿えない場合にはその旨を説明して1日待って頂くなどの対応を行っている。入浴の際に音楽をかけるなど楽しめるよう工夫をしている。	夜間の入浴支援も行うなど、ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯等を行ったり、入浴剤を使用して入浴を楽しんで頂いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	電気毛布を利用する方や自分でリモコンを所持し室温調整をする方もいる。発汗状況などを観察して心地よい室温に調節するよう努めている。使い慣れた布団を希望される方には季節ごとに家族より寝具の持ち込みを行っていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服のタイミングは医師や薬剤師の指示に基づいて行っているが、睡眠状況や排便状況など状況に合わせて微調整の必要な内服に関しては、職員間での観察情報などを医師へ伝えて内服のタイミングを調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描く方には道具の提供、点つなぎなどの月刊誌を好まれる方には居室担当者からの購入支援など、利用者ごとの好まれる作業や余暇の過ごし方を提供できるよう努めている。必要に応じてプランに組み込むことで役割として提供できるよう工夫を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の外出制限下では外出の頻度は低下していた。制限緩和にあわせて季節を感じられる場所や高田公園などへのドライブ・周辺町内での散歩など屋外に出られるよう外出支援を多めに提供している。現状、外出の際にも施設外部の方との接触は制限を行っている。	今年度は新型コロナの影響で自粛している中でも、ご利用者と一緒に季節に合わせたお花見やバス見学、赤倉温泉へバス旅行に行くなどのイベントとしての外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方で家族の了解を得られる場合には金銭を居室管理している方もいる。コロナ制限下では自由に店舗へ行くことが出来ない為、本人の希望購入品がある場合には希望に添えるよう居室担当者が買い物代行するなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設外への電話を希望される場合には支援しているが要望は少ない。コロナ過で面会制限がある状況下ではLINEテレビ電話を活用している。年賀状や記念日の贈り物などが個別に届くこともあるため、お礼の電話など支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者間の関係性やパワーバランスを観察し食席やホール座席などを調節することもある。利用者同士の過干渉やトラブルが無く、のんびりと気兼ねなく過ごせる環境になるように配慮している	リビングにはご利用者が刺し子で理念を作成した作品を掲示してあったり、ぬり絵や貼り絵の作品も掲示してあります。近所から頂いたタンズやオルガンも共有スペースに置かれ、落ち着いた環境になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を観察し気の合う方々や過干渉にならないよう食席や家具の配置を工夫している。一人でものんびりと過ごせるようホール内に水槽を配置、眺めながら座れるようソファを配置してみた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	敬老の日や母の日など年齢や和暦を意識出来るよう撮影した写真を飾ってある。家族から昔の家族写真などを持参頂き居室に飾ってある方もいる、会話の中で家族の思い出を引き出せるよう配慮している。	居室には、ご利用者毎に合わせた暖簾が入口に飾られてあるほか、時計や家具などを自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、母の日に頂いたご家族からのプレゼントを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からトイレまでなど各利用者の動線を観察し、歩行不安定な方でも安全につかまり歩行できるように家具の配置を工夫するなどしている。トイレや風呂場などは扉に表記して認識しやすいよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				